W-4-1

日本語における統語的名詞化と項構造に関する一考察

臼杵　岳（京都産業大学）

usuki@cc.kyoto-su.ac.jp

1.　はじめに

◇これまでの先行研究では、(1b)に示す「-方」名詞節は、名詞「-方」が補部に vP（VP）をとり、統語的に派生されると分析されている（Kishimoto 2006, Miyagawa 2020, 瀧田 2020）。

(1)　a. 太郎は本を読んだ。

　　b. 太郎の本の読み方　　(cf. 太郎が本を読んだ方法)

◇本発表では、日本語の「-方」名詞節に生起することの出来ない（2）の結果構文、小節構造を持つ「思う」や、(3)の主語指向性副詞の動作主の主観・判断を表す解釈が不可能なことに焦点を当てることで、項の具現化に関する新たな知見を得られると議論する。

(2)　a. *太郎の壁の青い塗り方　　(cf. 太郎が壁を青く塗った。)

　　b. *娘のかわいい思い方　　(cf. 太郎が娘を可愛く思っている。)

(3)　　#論文の面白い読み方　　(cf. 太郎は論文を面白く読んだ。)

◇第 2 節では、「-方」名詞節の特徴をまとめ、結果構文などの非文法性は先行研究の分析では説明されないことを指摘する。第 3 節では、Kishimoto（2008）の二重目的語構文のイディオムの分析から明らかになった-ni に関して概観する。そして、形容詞・形容名詞も同様に分類されることを示し、「-方」名詞節における結果構文などの非文法性の説明を試みる。第 4 節はまとめである。

2.　「-方」名詞節の特徴と問題提起

◇本節では、Kishimoto（2006）に基づき、「-方」名詞節の特徴をまとめる。さらに、Miyagawa（2020）における *Myers's Generalization* に基づく、「-方」名詞節での二重目的語構文の非文法性の説明の問題点を指摘する。

2.1. 「-方」名詞節の特徴

◇【特徴 1】: 主格・目的格は属格「の」として具現化される。後置詞「へ/で」や補文標識「と」は「の」を伴う。

(4)　a.　ジョンの本の読み方　　(Kishimoto 2006: 773)

　　b.　メアリーの舞台での踊り方　　(ibid.:773)

　　c.　太郎の花子への本の渡し方

　　d.　少年のオオカミが来たとの伝え方

◇【特徴 2】: 「-方」の補部は時制要素（T）を持たない。また、モーダル要素（C）も含まない。

(5)　*太郎の本の読{む/んだ/みます/むよ/むだろう/みそう/むかも}方

◇【特徴 3】: 「-方」名詞節の語順は、項構造を反映。一方で、属格表示の斜格、形容詞は移動可能（Kishimoto（2006: 789））。

(6)　a.　ジョンの本の読み方

　　b.　*本のジョンの読み方

(7)　a.　ジョンの{舞台での/熱心な}踊り方

b.　{舞台での/熱心な}$_i$ジョンの t_i踊り方

(8)　メアリーへの $_i$ジョンの t_iプレゼントの渡し方

◇【特徴 4】:使役「させ」/受動「られ」、尊敬語「お～になる」、アスペクト複合動詞「始める/終える」をとる(Kishimoto (2006: 775-776))。

(9)　この本の読ませ方/読まれ方

(10)　鈴木先生がお話しになった。

(11)　ジョンの本の読み始め方/ジョンの本の読み終え方

◇「-方」名詞節の派生:名詞「-方」が vP を補部にとり、V は「-方」に循環的な主要部移動をする(Kishimoto 2006)。T がないので、項の基底位置からの EPP による A 移動はない。

(12)　[$_{NP}$ [$_{vP}$ 主語(NP)　[$_{v'}$ 目的語(NP)　V]　v]　-方(N)]

2.2. *Myers's Generalization*

◇ Miyagawa (2020):二重目的語構文は「-方」名詞節を派生できない。(Miyagawa (2020: 32))

(13)　a.　*花子のジョンの MIT の勧め方

b.　花子のジョンへの MIT の勧め方

(14)　a.　*一郎の花子の荷物の送り方

b.　一郎の花子への荷物の送り方

◇英語の二重目的語構文や小節を含む構文の名詞化も非文法的となる。(Miyagawa(2020: 33))

(15)　present John the ball　⇨　*the presentation of John of the ball/*John's presentation of the ball

(16)　believe Thilo handsome ⇨ *the belief of Thilo handsome/*Thilo's belief handsome

◇Miyagawa(2020)では、*Myers's Generalization* による説明を提案している。Pesetsky (1995)では、二重目的語構文などに抽象的な前置詞 *G*(Goal)を仮定している。二重目的語構文の *give* には *G* が編入([*G* [give]])している([$_{vP}$ V [$_{PP}$ Goal [$_{P'}$ *G* Theme]]])。

(17)　*Myers's Generalization* (Myers 1984)

Zero-derived words do not permit the affixation of further derivational morphemes.

◇ *Myers's Generalization* により、抽象的な *G* が編入した動詞のさらなる名詞化は不可能と説明される。結果構文も小節を含む構文もこの *Myers's Generalization* による説明の可能性?(e.g. 塗る:[*R(esult)* [V]] / 思う:[*P(red)* [V]])。

◇vP 構造での抽象的な v の介在している(V-v-方)。Miyagawa (2020)では、「-方」は VP をとる場合と、vP をとる場合があると分析している。vP があることの証拠となる「鈴木先生がお話しになった」のような主語指向の尊敬語「お～になる」は v の形態的具現化と考える。一方で、それ以外の場合は、「-方」の補部は VP で、動作主に見えるものは DP の所有者項とした(Sugioka 1992)。

◇【Miyagawa 分析の問題(1)】:「先生がお読みになる」の「お～になる」が v の形態的具現化ということ自体の妥当性

◇【Miyagawa 分析の問題(2)】:主語指向性副詞の共起可能性

(18)　太郎の{懸命な/真剣な}本の書き方

◇【Miyagawa 分析の問題(3)】:主語が必要なコントロール動詞の複合語＋「-方」

(19)　a.　*雨が降り{そこね/わすれ/のこし}た。　(Kishimoto 2021)

　　b.　太郎の昼食の食べ{そこね/わすれ/のこし}方

◇よって、*Myers's Generalization* による説明は妥当ではないと考えられる。二重目的語構文と「-方」名詞節の相性の悪さは、*Distinctness*(Richards 2006)による解釈の困難さも一つの要因と考えられる。

◇また、英語の結果構文は名詞化が可能である(類例は、Carrier and Randall (1992: 201)を参照)。

(20)　a.　John's painting of the wall white　(cf. John painted the wall white.)

　　b.　*太郎の壁の白い塗り方　(cf. 太郎は壁を白く塗った)

3.　「-方」名詞節と項の具現化:

◇本節では、Kishimoto (2008)の二重目的語構文のイディオムの分析から明らかになった 3 タイプの-*ni* と、その「-方」名詞節での現れ方を示す。また、形容詞・形容名詞に関しても同様に分類できることを示し、それを足掛かりに「-方」名詞節での結果構文などの(非)文法性の説明を試みる。

3.1.　3 タイプの-ni と「-方」名詞節

◇Kishimoto(2008)は二重目的語のイディオムの分析から、3 タイプの-*ni* があると分析している。

(21)　[$_{vP}$ DP-nom [$_{v'}$ [$_{ApplP}$ DP-*ni* [$_{Appl'}$ [$_{VP}$ PP-*ni* [$_{V'}$ DP-acc [$_{V'}$ [$_{ApplP}$ DP-*ni* Appl] V]]] Appl]] v]]

　　a.　Dative の ni(上位の ApplP の指定部)

　　b.　PP の ni(VP の指定部)

　　c.　Dative-V idiom の ni(V の補部にある ApplP)

◇ Dative-ni と PP-ni の違いは、-e との置き換えの可能性(Kishimoto 2008: 150)。

(22)　a.　太郎が花子{に/へ}荷物を送った。　(PP-ni)

　　b.　太郎が花子{に/??へ}お菓子を与えた。　(Dative-ni)

◇　Dative-V idiom の-ni

(23)　車を手にいれる。　(ibid.: 145)

◇ 【Daive-V idiom の特徴 1】:イディオム解釈のため、スクランブリングは不可

(24)　*太郎は手に車を入れた。　(ibid.: 145)

◇ 【Dative-V idiom の特徴 2】:動詞との合成性

(25)　太郎は車を手に(は)入れたものの・・・　(ibid.: 146)

◇ 【Dative-V idiom の特徴 3】:「に」は「へ」への置き換えが不可能 → PP ではなく、DP-ni

(26)　*太郎は車を手{に/*へ}入れた。　(ibid.: 151)

◇　3 タイプの-ni の「-方」名詞節:Dative-V idiom は動詞句での形態と変わらない。

(27)　a.　太郎の花子への荷物の送り方　(PP-ni)

　　b.　*太郎の花子のお菓子の与え方　(Dative-ni)

　　c.　車の手{に/*(へ)の}入れ方　(Dative-V idiom)

◇　Nominal Marking(属格)と Verbal Marking(主格、目的格、与格):Kishimoto (2008: 161-162)によると、Daitive-V

idiom の与格は、ApplP を補部にとる V によって局所的に認可される。

(28) [$_{NP}$ [$_{vP}$ DP(agent)-GEN [$_{v'}$ [$_{ApplP}$ DP(possessor)-e-GEN [$_{Appl'}$ [$_{VP}$ PP(locative)-e-GEN [$_{V'}$ DP(theme)-GEN [$_{V'}$ [$_{ApplP}$ DP-DAT Appl] V]]] Appl]] v]] N (*niku/ yasu-sa/-kata*)]

3.2. 形容詞・形容名詞と「-方」名詞節

◇ 形容詞・形容名詞の分類（以下、(29)は、山木戸（2013：249-251）を参考）

(29) a. 太郎は美しく歌を歌った。/太郎は懸命に公園を走った。 （副詞的用法）

b. 太郎は花子を美しくした。/花子がきれいになった。 （小節）

c. 太郎は壁を青く塗った。/太郎は花瓶を粉々に壊した。 （結果述語）

d. 太郎が寂しく食事した。/太郎が元気に帰国した。 （描写述語）

◇ 形容詞・形容名詞と「方」名詞構文

(30) a. 太郎の美しい歌の歌い方/太郎の懸命な公園の走り方 （副詞的用法）

b. 太郎の花子の美し{く/*い}仕方/花子のきれいになり方 （小節）

c. *太郎の壁の青{く/い}塗り方/太郎の花瓶の粉々{に/な}壊し方 （結果述語）

d. #太郎の寂しい食事の仕方/#太郎の元気な帰国の仕方 （描写述語）

◇ 形容詞・形容名詞の 3 分類

(31) a. タイプ 1（V: {-く/-に}/ N:{-い/-な}）: 副詞的用法/描写述語 （PP-ni）

b. タイプ 2（V: {-く/-に}/ N: {-く/-に}）: 小節 （Dative-V idiom）

c. タイプ 3（V: {-く/-に}/ N: {N/A}）: 結果述語 （N/A）

◇ 【タイプ 1 と PP-ni との共通点 1】：スクランブリングの可能性

(32) a. （美しく）太郎は（美しく）歌を（美しく）歌った。/（懸命に）太郎は（懸命に）公園を（懸命に）走った。

b. （寂しく）太郎は（寂しく）食事を（寂しく）した。/（元気に）太郎が（元気に）日本に（元気に）帰国した。

c. （花子{に/へ}）太郎は（花子{に/へ}）荷物を（花子{に/へ}）送った。

◇ 【タイプ 1 と PP-ni との共通点 2】：「-方」名詞節でのスクランブリングの可能性

(33) a. （?美しい）太郎の（美しい）歌の（美しい）歌い方/（?懸命な）太郎の（懸命な）公園の（懸命な）走り方

b. （?寂しい）太郎の（寂しい）食事の（寂しい）仕方/（?元気な）太郎の（元気な）日本への（元気な）帰国

c. （花子への）太郎の（花子への）荷物の（花子への）送り方

◇ 【タイプ 1 と PP-ni との共通点 2】：名詞節内での形態

(34) a. 太郎の美し{い/*く}歌い方/太郎の懸命{な/*に}走り方

b. 太郎の寂し{い/*く}食事の仕方/太郎の元気{な/*に}帰国の仕方

c. 太郎の花子{への/*に/*へ}荷物の送り方

◇ 【タイプ 2 と Dative-V idiom の共通点 1】：小節構造のためスクランブリンが不可

(35) *太郎は美しく花子をした。/?*きれいに花子がなった。

◇ 【タイプ 2 と Dative-V idiom の共通点 2】：動詞との合成性

(36) 太郎は花子を美しく（は）したものの・・・/花子がきれいに（は）なったものの・・・

◇ 【タイプ 2 と Dative-V idiom の共通点 3】:「-方」名詞節でも動詞と同じ屈折

(37) a. 太郎の花子の美しくし方/ 花子のきれいになり方

b. *太郎の花子の美しいし方/*花子のきれいなり方

3.3.「-方」名詞節の認可の領域

◇ Kishimoto (2008)の ni の分析を参考に、名詞節における形容詞・形容名詞の認可領域をまとめる。

(38) a. [$_{DP}$…[$_{NP}$…[$_{vP}$…[$_{VP}$…[...V]]]]] (名詞領域)

b. [$_{DP}$…[$_{NP}$…[$_{vP}$…[$_{VP}$…[$_{V'}$ PredP V]]]]] (動詞領域)

c. *[$_{DP}$…[$_{NP}$…[$_{vP}$…[$_{VP}$… [$_{RP}$ [$_{R'}$ AP R]]]]]] (結果領域)

◇ 「-方」名詞節での副詞的用法・描写述語は、名詞領域(Nominal Domain)で認可される。

(39) a. [$_{vP}$ 太郎が [$_{v'}$[$_{VP}$ [$_{V'}$美しく[$_{V'}$ 歌を [$_{V'}$ XP V(√歌う)]]]]v]]

b. [$_{DP}$ [$_{NP}$ [$_{vP}$ 太郎の [$_{v'}$[$_{VP}$ [$_{V'}$美しい [$_{V'}$ 歌の[$_{V'}$ XP V(√歌う)]]]]v]] N(-方)] D]

◇ 「-方」名詞節での小節は、動詞領域(Verbal Domain)で認可される(形容詞・形容名詞の屈折(*-ku*/*-ni*)は Pred 主要部の具現化)。この動詞領域は、上位の DP から不可視であるため、V からの認可となる。

(40) a. [$_{TP}$ DP$_i$ [$_{VP}$ t_j [$_{V'}$ [$_{PredP}$ √きれい Pred(*-ni*)] V(なる)]] T]

b. [$_{DP}$ [$_{VP}$ DP$_i$ [$_{V'}$ [$_{PredP}$ √きれい Pred(*-ni*)] V(なる)]] N(-方)]D]

◇ 「-方」名詞節での結果構文は、結果領域(Result Domain)で認可される(結果構文の構造に関しては、Hasegawa (2020)を参照)。まず、この結果領域は上位の DP から不可視(名詞領域の外)であるため、名詞句内での認可はできない(「*青い塗り方」)。また、Res 主要部(√塗り)が V に複合するが、AP は最大投射のため動詞に複合ができない(「*青く塗り方」)。

(41) a. [$_{TP}$ DP$_i$ [$_{vP}$ t_i [$_{v'}$ [$_{AspP}$ [$_{Asp'}$ [$_{VP}$ DP$_j$ [$_{V'}$[$_{ResultP}$ t_j [$_{Res'}$[AP 青く] Res(√塗り)]] V]] Asp]] v]] T]

b. *[$_{DP}$ [$_{NP}$ [$_{vP}$ DP [$_{v'}$ [$_{AspP}$ [$_{Asp'}$ [$_{VP}$ DP$_j$ [$_{V'}$[$_{ResultP}$ t_j [$_{Res'}$[AP 青く] Res(√塗り)]] V]] Asp]] v]] N(-方)] D]

◇ 瀧田(2020)は、日本語の動詞語幹・否定辞・時制は形態的に融合し 1 語となる形態的併合を仮定し、「-方」名詞節の分析をしている。本稿では、形態的併合は採用していないが、それぞれの領域確定の背後には、主要部の併合があると考えられる。(41a)の結果構文が認可されているのは Tense の存在であり、言い換えるならば＜Res-V-Asp-v-T＞ の併合により「結果領域」における結果項の認可ができていると考えられる(全体が Verbal Domain となる)。

(42) a. DP:機能範疇 D による名詞領域の構築

b. TP:機能範疇 T による動詞領域の構築

◇ (43c)の見せかけの結果構文は様態修飾解釈となる。一方で、(43b)のように主語描写句の生起が可能である(vP 内)。(43a)で主語の評価・判断を表す解釈の欠落は、vP よりも上位投射が関わっている可能性がある(Tenny 2006)。

(43) a. 太郎の論文の面白い読み方 (cf. 太郎は論文を面白く読んだ。)

b. 太郎の裸での本の読み方 (cf. 太郎は裸で本を読んだ。)

c. 花子の髪の優雅な結び方 (cf. 花子は髪を優雅に結んだ。)

4. おわりに

◇ 「-方」名詞節における結果構文などの（非）文法性を Kishimoto（2008）における ni の分析と形容詞・形容名詞の分類の共通性に基づく説明を試みた。日本語の ni と形容詞・形容名詞の並行性の検証は今後の研究課題とする。

参考文献

Carrier, Jill and Janet H. Randall（1992） "The Argument Structure and Syntactic Structure of Resultatives," *Linguistic Inquiry* 23-2, 173-234.

Hasegawa, Nobuko（2020）"Syntactic Derivation of Resultatives in View of the Refined VP Structure," Hideki Kishimoto, Masashi Kawashima and Kazushige Moriyama (eds.), *Papers from the Secondary Predication Workshop 2020*, 1-25, Kobe University.

Kishimoto, Hideki（2006）"Japanese Syntactic Nominalization and VP-internal Syntax," *Lingua* 116, 771-810.

Kishimoto, Hideki（2008）"Ditransitive Idioms and Argument Structure," *Journal of East Asian Linguistics* 17, 141-179.

Kishimoto, Hideki（2021）"Syntactic V-V Compounds in Japanese," In Taro Kageyama, Peter, E. Hook and Prashant Pardeshi (eds.), *Verb-verb Complexes in Asian Languages*, 103-138, Oxford University Press.

Miyagawa, Shigeru（2020）"Nominalization and Argument Structure: Evidence for the Dual-Base Analysis of Ditransitive Constructions in Japanese," 于一楽、江口清子、木戸康人、眞野美穂（編）『統語構造と語彙の多角的研究　岸本秀樹教授還暦記念論文集』, 開拓社. 18-44.

Myers, Scott（1984）"Zero-derivation and Inflection," *Papers from the January 1984 MIT Workshop in Morphology,* M. Speas and R. Sproat (eds.), *MIT Working Papers in Linguistics* 7, 53-69.

Ramchand, C. Gillian（2008）*Verb Meaning and the Lexicon: A First-Phase Syntax*, Cambridge Studies in Linguistics, Series Number 116, Cambridge University Press.

Pesetsky, David（1995）*Zero Syntax: Experiencers and Cascades*, Cambridge, MA: MIT Press.

Richards, Norvin (2006) "A Distinctness Condition on Linearization," ms.,（https://web.mit.edu/norvin/www/home.html）

Shibata, Yoshiyuki（2015）*Exploring Syntax from the Interfaces*, Doctoral dissertation, University of Connecticut.

Sugioka, Yoko（1992）"On the Role of Argument Structure in Nominalization," *Language, Culture, and Communication* 10, 53-80, Keio University.

杉岡洋子（2021）「主観的形容詞の副詞用法」 岡部玲子、八島純、窪田悠介、磯野達也（編）『言語の楽しさと楽しみ　伊藤たかね先生退職記念論文集』, 開拓社. 123-134.

瀧田健介（2020）「「-方」名詞節の構造」斎藤衛、高橋大厚、瀧田健介、高橋真彦、村杉恵子（編）『日本語研究から生成文法理論へ』, 開拓社. 128-142.

Tenny, L. Carol（2006）"Evidentiality, Experiencers, and the Syntax of Sentence in Japanese," *Journal of East Asian Linguistics* 15, 245–288 .

山木戸浩子（2013）「日本語における形容詞活用語尾の本質について」遠藤喜雄（編）『世界に向けた日本語研究』, 開拓社. 219-255.